



第 83 期  
2017年7月1日~2018年6月30日

# にしかわ通信

Nishikawa NISHIKAWA KEISOKU



企業理念および経営方針

# みんなで良くなるう

当社は「みんなで良くなるう」という企業理念を基に、「計測」「制御」「分析」のエンジニアリングを基盤として、あらゆる産業の発展に寄与し、広く社会に貢献していくことにより、お客さま、お取引先、株主の皆さま、社員が良くなることを目指しております。

- 1 お客さまの期待を超える  
高付加価値のソリューションを提供する
- 2 環境保護、株主重視経営、雇用等を通じ  
社会的責任を果たす
- 3 企業倫理の尊重、法令遵守に努め、  
公正な経営を実践する
- 4 自立し誇りを持って、学び成長し続ける  
プロ集団を目指す

## ごあいさつ

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

ここに第83期(2017年7月1日～2018年6月30日)の業況をご報告申し上げます。

わが国経済は、米国の経済政策や地政学的なリスクはあるものの、政府の各種政策の効果もあり、企業収益、雇用、所得環境の改善が続き、総じて堅調に推移しました。

このような状況のもとで当社は、中期経営計画“CD2019”の初年度として、基本戦略である「基幹ビジネスの拡大」「R&Dビジネスの強化」「独自のソリューション展開」を推進し、収益の向上を図ってまいりました。

その結果、当期の業績は売上・利益ともに前期を下回りましたが、受注高は制御・情報機器システムを中心に大型案件が伸長し、受注残高が過去最高となり、来期以降に期待が持てる結果となりました。

また、経営環境の変化に対してより迅速かつ効率的に対応できる体制を構築すべく、あるべきコーポレート・ガバナンスの確立、内部統制の一層の整備、コンプライアンス体制にも引き続き取り組んでまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後も一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2018年9月

代表取締役会長 西川 徹  
代表取締役社長 田中 勝彦





## くらしや産業に欠かせない 「水のインフラ」を支える

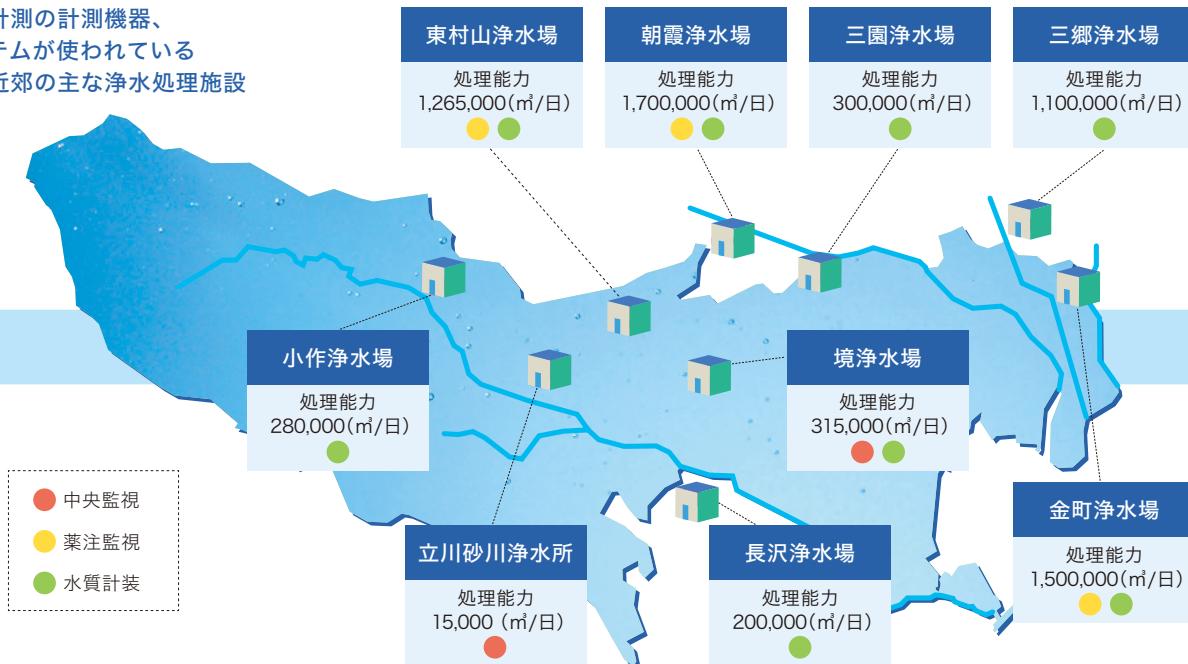
東京都水道局は、23区および多摩地区を合わせ、約1,239平方キロメートルの区域、1,330万人の都民に水道水を供給しており、国内最大の浄水処理能力を擁しています。

安全でおいしい水づくりのため、水道法で規定される水質基準以上に厳しく設定された独自の基準を設けており、高度処理された飲み水は

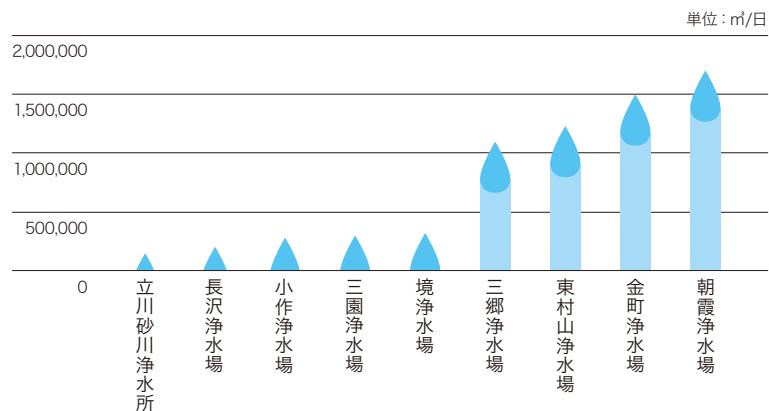
「東京水」として販売されています。

当社は東京都水道局内の多くの浄水場において、くらしや産業に欠かせない「水のインフラ」を支える一員としてだけでなく、東京都水道局の水源地保全の活動に賛同し、みんなで作る「水源の森」へも協賛しています。企業活動を通し今後も社会的使命を果たしてまいります。

西川計測の計測機器、  
システムが使われている  
都内近郊の主な浄水処理施設



### 浄水場ごとの処理量



毎日**667万**m³の浄水処理に  
西川計測は貢献しています



## 安心・安全な水づくりに 貢献する西川計測

2020年開催の東京オリンピック・パラリンピックに備え、より安心・安全な飲み水の供給を目的とし、生物センサを利用した毒物監視装置や原水微量油分濃度計、トリハロメタン計、トリクロラミン計など、より高度な水質測定機器を導入しています。

当社は、機器の納入ならびに保守業務を通じ、東京都水道局の「安全でおいしい水」づくりに貢献しています。



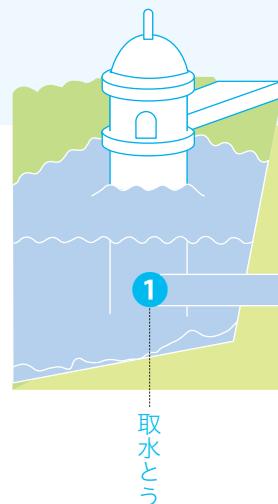
### 取水・配水流量

東京都水道局の「安全でおいしい水」づくりに、計装と呼ばれる分野において当社は全力で取り組んでいます。

水道法で規定される水質基準以上に厳しく設定された東京都独自の水質基準を満たすため、流量・圧力、水質測定、薬品注入、これらを統合する監視制御システムを納入し、機器・システムが常に100%の性能を発揮するための保守業務など、さまざまな分野において貢献しています。



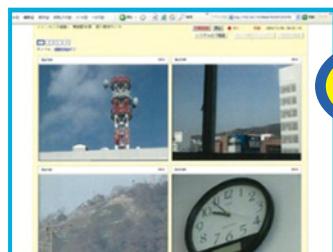
大口径電磁流量計





## 中央監視、薬品注入監視制御設備

河川や井戸から取り込んだ原水に凝集剤(PAC)、消毒剤(次亜塩)、活性炭を水の状況に合わせて適正に注入し、24時間自動で監視・制御を行っています。



ここが  
西川計測!

## 水質監視装置

薬品注入量がより少なく、適正となるよう、水の濁度、残留塩素、かび臭やテロ対策として生物センサによる毒物監視など24時間自動で監視しています。

自動水質計器

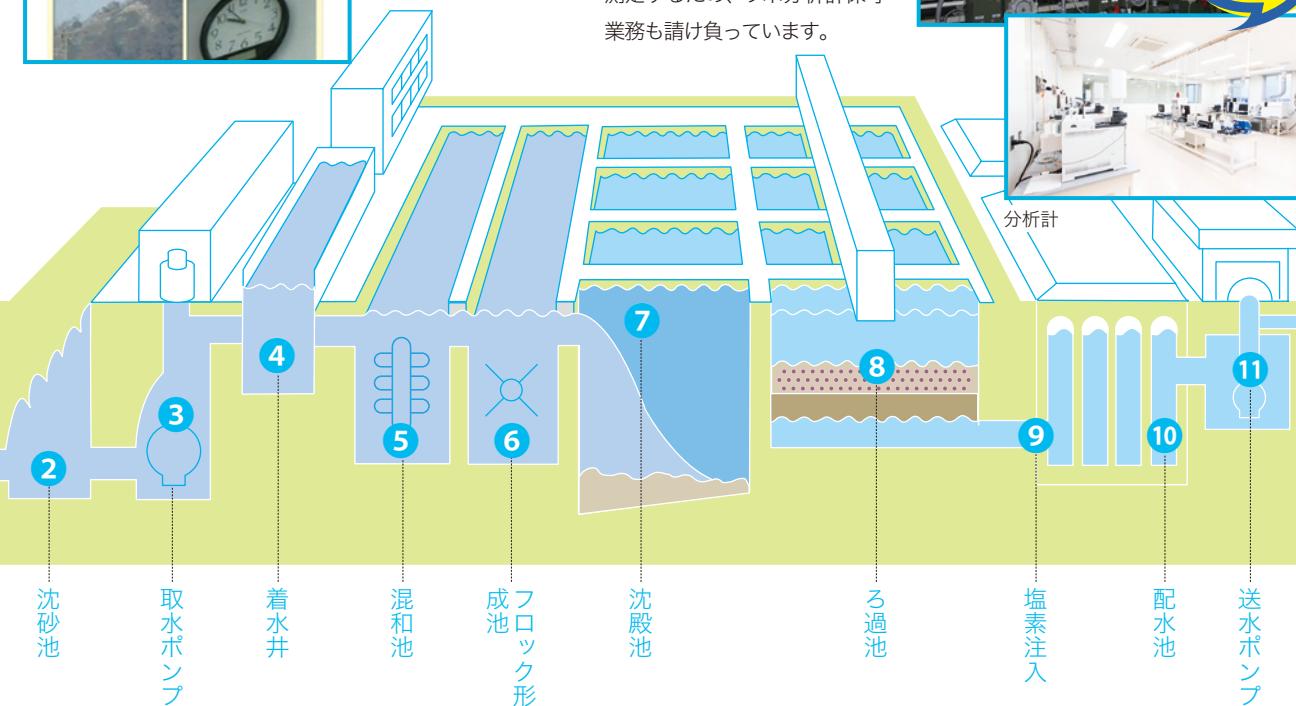
また浄水場内だけでなく、一般家庭にお届けする給水管末端にも自動水質計器を設置し、水の安全性を確認しています。よりきめ細やかに精度よく測定するため、ラボ分析計保守業務も請け負っています。



ここが  
西川計測!



分析計





## 教育現場へ環境管理システムを納入

当期、沖縄県の学校教育現場に最新の環境管理システム「ユビキタス環境制御システム」UECS (ウエックス)を含む水耕栽培装置を納入しました。

これまでハウスなど温室における自動栽培は、操作場所が限定された集中監視型コンピュータを使用していましたが、このUECS (ウエックス)の導入により、スマートフォンなどの小型機器を使用し、遠隔操作で、「いつでも・どこでも」簡単に操作ができるようになりました。

また、従来の水耕栽培では、水溶液を冷却する際には、大型のチラー<sup>\*</sup>と大型保冷用タンクを使用し、大掛かりな作業を要していましたが、今回納入したものは、専用チューブを栽培棚の内部に取り付け、小型のチラーで作成した冷却水が専用チューブを通じ水溶液を直接冷却することにより、省エネおよび工事の軽減を可能にしました。

当社は、最新の技術提供を通じ、学校教育および農業技術の発展にも貢献しています。



※チラー：冷却水製造装置



## 北海道ガス(株)様の石狩LNG基地に訓練シミュレータを納入

東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社様(以下: TGES様)が手掛けるソリューションビジネスのひとつとして、日本最北端で最新の石狩LNG基地内に訓練シミュレータを納入しました。当社はシミュレータ製作を請け負い、TGES様の長年蓄積されたノウハウとエンジニアリングにより訓練シミュレータが完成します。石狩LNG基地は操業への影響に対する制約から実プラントでの訓練が限定されているため、技能習熟機会が限られています。そこで、技能

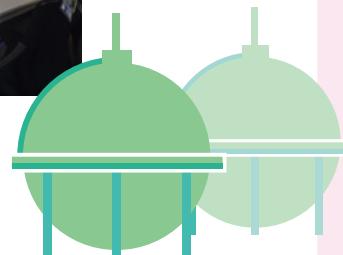
習熟のためにこのような仮想プラントで訓練を実施する必要があります。PC内に仮想プラントを構築し、実際と同じ制御回路を組み込んだ上で操業訓練を実施します。

また、さまざまな非定常な状態を模擬的に起こします。その時に訓練者(生徒)が落ち着いた確かな操業をできているか、トレーナー(先生)が評価および指導するしくみとなっています。

昨今話題のAIソリューションビジネスのひとつとして当社は取り組んでいます。



訓練の様子





## 交流電力校正器 (LS3300) を日本電気計器検定所様に納入

電気の取引・証明に使う電気メーターは、検定によって、正しくはかることができるかを確認し、合格したものだけが使われています。この合否を判断している検定機関が日本電気計器検定所様(以下:JEMIC)であり、電気の取引・証明に安心と信頼をもたらす非常に重要な役割を担っております。

JEMIC様で電気メーターの検定を受けた場合、検定ラベルと検定証(封印キャップ)が取り

付けられていますので、皆さんの家庭の電気メーターをご確認してみてください。

今年度、西川計測はJEMIC様に電力を発生する際に必要な計測器として、横河計測社製「交流電力校正器(LS3300)」を多数ご採用いただきました。LS3300は従来の製品に比べ、小型・高精度・高出力など高い性能を誇る製品です。

製品の品質保証がより一層重要となる中、西川計測はJEMIC様のような公正・中立な機関にお役に立てる重要な測定器を納入しております。



検定ラベル



封印キャップ



## JASIS (分析展) 2017 出展

2017年9月6日から8日までの3日間、幕張メッセにおいてアジア最大級の分析・科学機器専門展示会JASIS2017が開催され、当社も出展しました。

JASISは、来場者が2万人を優に超えるイベントであり、多くのお客さまに当社をアピールできる絶好の機会となります。

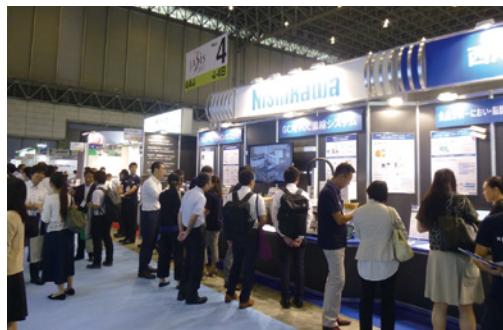
当社のブースにお立ち寄りいただけるお客さ

まも年々増加し、引き合いも増えてきています。こうした機会を有効に活用し、新規顧客の開拓、知名度の向上につなげていきます。

次回のJASISについても引き続き参加を予定していますが、「顧客目線」を念頭に一人でも多くの来場者の方に当社を知っていただけるよう、努めていきます。



展示ブース



多くのお客さまがご来場されました



## 「NS-171 ガス捕集ユニット」を新発売

当社は、市販のイオンクロマトグラフ(IC)と組み合わせることで、半導体製造用クリーンルーム中の分子状汚染物質(AMC)をオンラインで監視することを可能にする装置「NS-171 ガス捕集ユニット」を開発し、新商品として発売しました。

本製品は、クリーンルーム内に設置された最大16カ所のサンプリングポイントから順次代替し、空気を吸入・捕集します。捕集された空気に含まれるAMCは、インピンジャー内で純

水に溶解され、イオンとなります。このイオンを濃縮カラムにより濃縮し、ICに導出し測定を行います。ICを用いてオンライン監視できることが、大きな特長となります。各ポイントでマニュアル捕集したものをICまで運び測定を行う手法よりも、自動化されることにより業務の効率性が向上します。また、濃縮カラムを用いたICは、分光光度法等と比較し、より高感度な測定が期待できます。



### 参考

#### イオンクロマトグラフ

#### Ion Chromatograph ▶ IC

イオン種成分を測定する液体クロマトグラフ装置の一種。水質管理や大気環境測定、食品分野などに広く用いられている。

#### 分子状汚染物質

#### Airborne Molecular Contaminant ▶ AMC

クリーンルーム建屋、製造装置構成材料や外気、人、薬品などに由来し、歩留まり悪化要因となる物質で、酸性物質、塩基性物質、ドーパント類、金属、高揮発性有機化合物に大別される。半導体の微細化・高集積化に伴い、より低濃度での管理が必要となっている。



## 東京都水道局「みんなでつくる水源の森実施計画」に協賛

2017年に東京都水道局は、多摩川上流域の森林が抱える、喫緊の課題に対応するため、「民有林の積極的購入」と「多様な主体と連携した森づくり」の具体的な取り組みを示した、「みんなでつくる水源の森実施計画」を策定しました。

当社は、社会貢献活動の一環として本取り組みに賛同し協賛しています。今後も、水に関わる設備や装置を提供する企業として、水道水源林保全活動の推進や理解促進に貢献し、社会・環境の持続的な発展を目指していきます。



「みんなでつくる水源の森実施計画」リーフレット



小河内貯水池

## お客さまとのかわり

2017年11月に熊本と大分にて「計測」「制御」「分析」の分野における製品展示会「西川計測展」を開催しました。熊本では2年ぶり4回目、大分では6回目の開催となるこのイベントは、十社以上ものメーカー様が会場に集結し、最新技術を用いた製品を展示するほか、各種セミナーを開催することで、最新技術やソリューションに触れる機会をお客さまに提供しています。当社はこれからも技術、商品を通じて、多くのお客さまと対話を行っていきます。

大分展の様子



熊本展の様子



## 損益計算書

(注) 金額は千円未満の端数を切り捨てております。(単位: 千円)

	前期 2017年6月期	当期 2018年6月期
<b>営業損益の部</b>		
<b>営業収益</b>		
売上高	28,661,407	27,263,718
<b>営業費用</b>	27,185,140	25,878,605
売上原価	23,133,009	21,804,002
販売費及び一般管理費	4,052,130	4,074,603
<b>営業利益</b>	<b>1,476,266</b>	<b>1,385,112</b>
<b>営業外損益の部</b>		
<b>営業外収益</b>	34,343	53,050
受取利息及び配当金	28,251	33,305
その他営業外収益	6,092	19,745
<b>営業外費用</b>	6,647	2,445
固定資産除却損	5,873	—
その他営業外費用	774	2,445
<b>経常利益</b>	<b>1,503,962</b>	<b>1,435,717</b>
<b>税引前当期純利益</b>	<b>1,503,962</b>	<b>1,435,717</b>
法人税等	477,203	463,233
<b>当期純利益</b>	<b>1,026,758</b>	<b>972,484</b>

### 売上高、営業利益、 当期純利益

売上高は、受注内容に來期以降の売上分が多く含まれており当期業績への貢献が限定されたことから、前期比4.9%の減少となりました。利益面は、減収に伴う利益の減少に加え研修やシステム関連の投資等により営業利益は前期比6.2%の減少、当期純利益は前期比5.3%の減少となりました。

## キャッシュ・フロー計算書

(注) 金額は千円未満の端数を切り捨てております。(単位: 千円)

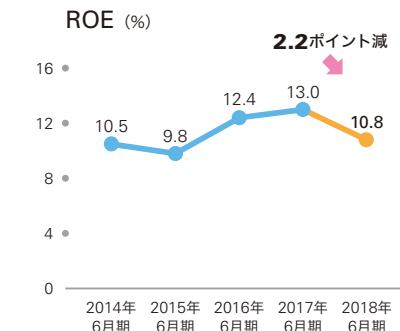
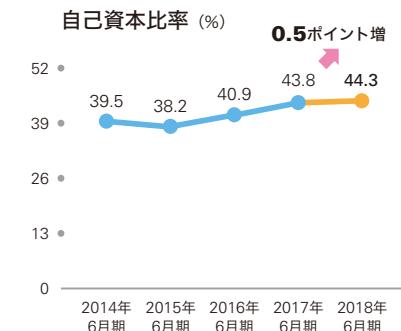
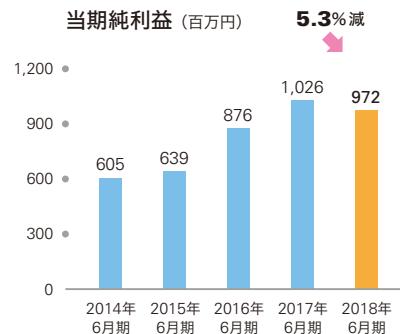
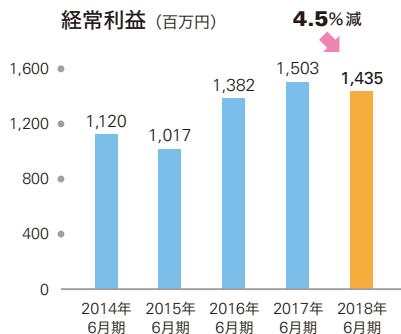
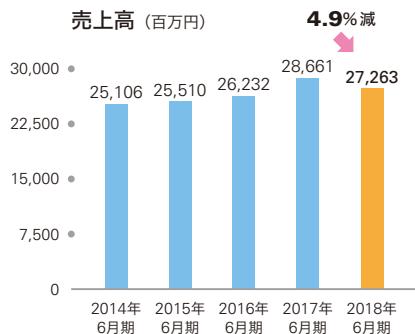
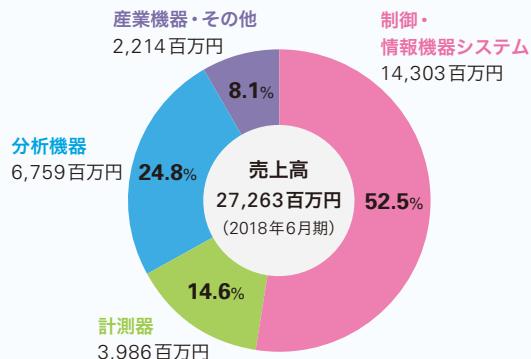
	前期 2017年6月期	当期 2018年6月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,893,298	750,033
投資活動によるキャッシュ・フロー	32,492	155,646
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 210,802	△ 405,506
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	1,714,987	500,173
現金及び現金同等物の期首残高	6,057,459	7,772,447
現金及び現金同等物の期末残高	7,772,447	8,272,620

### キャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税引前当期純利益14億35百万円に対し、売上債権やたな卸資産の増加などを調整した結果、7億50百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、保険解約の返戻金などにより、1億55百万円の収入となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式の取得、配当金の支払による支出などにより4億5百万円の支出となりました。

## 決算のポイント

当期はライフライン(水道・ガス・電気)関連が堅調に推移したことに加え、自動車関連の回復、通信・半導体関連の伸長もあり、受注高は319億31百万円(前期比9.3%増)と過去最高となりました。一方、売上高は、受注内容に来期以降の売上が多く含まれており当期業績への貢献が限定されたことから、272億63百万円(前期比4.9%減)となりました。利益面は、減収に伴う利益の減少に加え研修やシステム関連の投資等により、営業利益は13億85百万円(前期比6.2%減)、経常利益は14億35百万円(前期比4.5%減)、当期純利益は9億72百万円(前期比5.3%減)となりました。



## 事業のご紹介

### 制御・情報機器システム

- プロセスコンピュータ
- 温度計
- 流量計
- 圧力計
- プロセスコントローラ ほか

自動車、石油、化学、食品、薬品、電機、電子、建設などのさまざまな産業分野で、生産現場のPA（プロセスオートメーション）化、FA（ファクトリーオートメーション）化を進める際の制御・情報機器システムのエンジニアリングを行っています。非製造業の分野では、上下水道、電力、ガスなどライフラインの公益事業関連でシステムインテグレータとして高い評価と信頼を得ています。

業種別に「基本設計→詳細設計→システム構築→施工管理→スタートアップ」まで一貫処理できる体制を確立して、顧客ニーズにきめ細かく対応しています。



### 分析機器

- ガスクロマトグラフ
- 液体クロマトグラフ
- ICP質量分析装置 ほか

民間および官公庁の研究開発機関などで使用される、ラボ用分析機器、環境用分析機器を取り扱っています。当社ではガスクロマトグラフ、液体クロマトグラフ、ICP質量分析装置などのコンサルティング販売を行い、高い実績を上げています。

この数年は大気・水質汚染、輸入食品の農薬分析などに伴う環境分析機器や、国の水質基準改訂に伴う水道水分析装置の需要が増えつつある一方、半導体、製薬、石油関連産業においても研究開発用の分析機器の需要が活発化しています。



### 計測器

- 電力計
- オシロスコープ
- レコーダー ほか



取り扱っている計測器は、計測対象により電圧、電流、温度、長さ、振動、音と極めて多岐に及んでいます。

当社では、各業種の試験研究分野向けの計測器納入と計測に関するソリューションの提供を積極的に行い、電機・電子などの先端技術、自動車開発分野にも貢献できる計測器の提供を行っています。また、お客さまのニーズに応えられるよう、レンタルビジネスにも取り組んでいます。

### 産業機器・その他

- 研究開発向けオリジナル試験装置
- 教育機関向けプラント装置
- 受託計測 ほか

自動車をはじめとする輸送機器や半導体関連の環境試験装置、太陽光発電をはじめとする新エネルギーなどの研究開発分野に向けた当社オリジナルの試験装置を販売しています。また、計測・制御・通信に関わる専門知識を活かし、依頼されたさまざまな測定データをお客さまへ提供する「受託計測」ビジネスにも積極的に取り組んでいます。



## 概要 (2018年6月30日現在)

商号	西川計測株式会社
本社所在地	東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル 5階
創業	1932(昭和7)年10月
資本金	569,375千円
従業員数	382名

## 国内ネットワーク



本社外観



## 取締役 (2018年9月27日現在)

代表取締役会長	西川 徹
代表取締役社長	田中 勝彦
常務取締役	営業統括本部長 砂子 司
取締役	コーポレート本部長 小林 俊弥
取締役	八木 孝憲
取締役	公共営業本部長 兼 営業統括本部室長 須田 真
取締役 (常勤監査等委員)	石川 博史
社外取締役 (監査等委員)	野田 謙二
社外取締役 (監査等委員)	宇佐美 豊

## 執行役員 (2018年9月27日現在)

常務執行役員	西九州支店長 木津 章三
執行役員	関西支社長 尾池 一郎
執行役員	エネルギー営業本部長 小山 和彦
執行役員	分析営業本部長 鴨下 修
執行役員	VAソリューション本部長 赤塚 雅賢
執行役員	九州支社長 福山 貴弘
執行役員	エンジニアリング本部長 森 靖彦

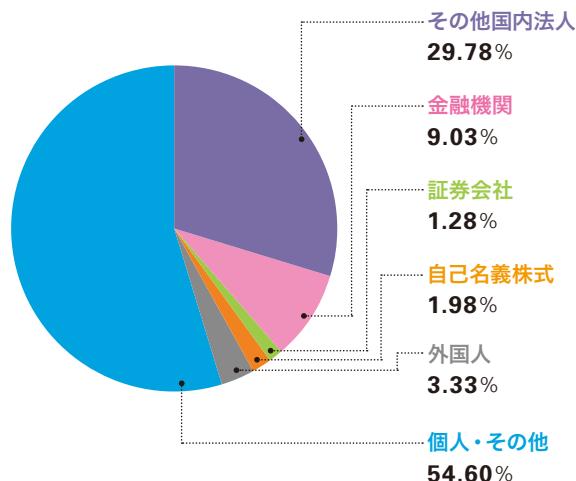
## 株式の状況

### 大株主 (2018年6月30日現在)

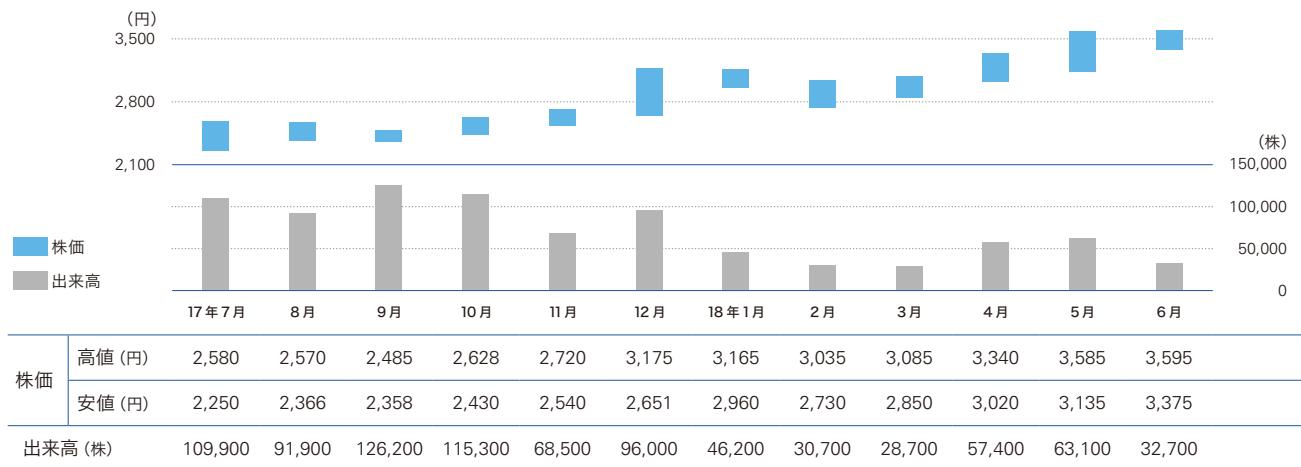
株主名	所有株式数(株)	出資比率(%)
横河電機株式会社	442,400	13.14
株式会社インフォサービス	326,700	9.71
西川計測社員持株会	247,100	7.34
西川 徹	240,500	7.14
西川 隆司	198,300	5.89
株式会社三井住友銀行	120,000	3.56
日本生命保険相互会社	80,000	2.37
重田 康光	77,000	2.28
下中 佳生	61,600	1.83
株式会社光通信	61,600	1.83

(注) 出資比率は、自己株式(67,912株)を除外して計算しております。

### 所有者別株式分布状況 (2018年6月30日現在)



### 株価の推移



## 株主メモ

事業年度	毎年7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	毎年9月下旬
単元株式数	100株
基準日	定時株主総会・期末配当：毎年6月30日 (中間配当を実施する場合：毎年12月31日)
公告方法	電子公告とします。 ただし、事故その他やむを得ない事由によって 電子公告ができない場合の公告方法は、日本 経済新聞に掲載する方法とします。 [電子公告ページ URL] <a href="http://www.nskw.co.jp/">http://www.nskw.co.jp/</a>
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031 (フリーダイヤル)
証券コード	7500

### ● 住所変更、単元未満株式の買取等のお申し出先について

株主さまの口座のある証券会社等にお申し出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

### ● 未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。



## 投資家情報 Web ページのご紹介

URL <http://www.nskw.co.jp/ir/>

有価証券報告書や決算短信などIR資料をご覧いただけます。

### ● 「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しております「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねております。当書類は、配当金をお受け取りになった後の配当金額のご確認や確定申告の資料としてご利用いただけます。確定申告をされる株主さまは、大切に保管ください。

ただし、株式数比例配分方式をご選択いただいている株主さまにつきましては、源泉徴収税額の計算は証券会社等にて行われます。確定申告を行う際の添付資料につきましては、お取引の証券会社等にご確認ください。

**Nishikawa**  
NISHIKAWA KEISOKU

西川計測株式会社 〒151-8620 東京都渋谷区代々木 3-22-7 新宿文化クイントビル 5階 TEL. 03-3299-1331 FAX. 03-3299-1477

